



重度の障害がありながらも、電動車椅子サッカーに人生を賭ける選手たち。世界へ挑む彼らの、競技にかける想いや日々の葛藤を追った、6年間の物語。

永岡真理は生まれながらにして難病「SMA(脊髄性筋萎縮症)」を患い、生涯で一度も歩いたことがないが、ひとたび試合が始まれば華麗かつ激しいプレーで観客を魅了する。東武範は筋ジストロフィーにより呼吸器が手放せず食事を摂ることも辛い。国内でも屈指の実力を誇る。真剣なトレーニング、家族のサポート、自らの障害との折り合い、恋愛模様、そして夢のワールドカップ。映画『蹴る』は、永岡・東を中心に電動車椅子サッカーワールドカップを目指す選手達を6年間に渡り追いつけたドキュメンタリー映画である。

電動車椅子サッカーは「生きることそのもの」



2011年7月、電動車椅子サッカー日本代表の強化試合。私の目は唯一の女性選手、永岡真理に釘づけになった。彼女と初めて対峙した私は思わず口走った。「あなたは今後日本代表に選ばれると思う。4年後のワールドカップにチャレンジする姿を是非撮らせてほしい」。

そこから資金のあてもないまま独りで撮影を開始した。選手たちの障害を知るため、資格を取り介護の仕事も始めた。ワールドカップが2年延期になったことで、撮影期間は6年以上に。その分選手たちとの信頼関係が深まり、本音をさらけ出してもらえるようになった。

選手たちの障害、プレースタイルや性格は様々だが、共通するのは競技に対する想いの強さ。そんな選手たちの想いを映像に刻み込みたい、その一心で撮影に打ち込んだ。

この映画を通して、電動車椅子サッカーの魅力を多くの人に知ってほしい。選手たちの想いを感じてほしい。生きる姿に目を向けてほしい。きっと“障害者”に対する見方も変わるはずだ。

映画『蹴る』監督 中村和彦

電動車椅子サッカーとは？

電動車椅子に乗った4名の選手が、ドリブル、パス、回転シュートを駆使しての対戦チームとのゴール数を競うスポーツ。選手の多くはSMA(脊髄性筋萎縮症)や筋ジストロフィー、脳性麻痺、脊髄損傷等により自立歩行できないなどの重い障害を持つ。国内では、年一度、日本一を競う選手権大会のほか、全国各地において競技イベントや健常者が参加できる大会などが行われている。日本電動車椅子サッカー協会(JPFA)には561名、40チームが登録、過去3回の全てのワールドカップに代表チームが参加している。

日本電動車椅子サッカー協会 公式サイト <http://www.web-jpfa.jp/>



ワールドカップ・フランス大会が終わった失意の中、出会ったのが電動車椅子サッカーの仲間だった。医者にも止められてもプレーを続ける姿に背中を押されて私はビッチに戻った。彼らの真剣さ、勇気を受け止めてください。

FC今治オーナー 岡田武史

「生きているということが当たり前だと思わずに生活しています」という肉声に胸に刺さった。

「蹴る」ことは彼ら、彼女らにとってはすなわち「生きる」ことなのだ。壮絶な蹴り様、生き様を中村和彦監督はここに刻印した。

ノンフィクションライター 木村元彦

電動車いす歴30年以上を誇る私なら、そこそこやれるだろうと挑んでみた。ところが、まったく歯が立たなかった。

電動車いすで、あれほどの迫力と躍動感を生み出せるなんて脱帽!!

作家 乙武洋匡

9月14日(土)～17日(火) 11時00分

神戸映画資料館にて上映

※日曜・火曜は日本語字幕版上映※

★9月15日(日) 中村監督来場

アクセス：JR新長田駅より徒歩5分

市営地下鉄 駒ヶ林駅より徒歩5分

所在地：神戸市長田区腕塚町5丁目5番1 アスタくにつか1番館北棟2F 201

《料金》前売：1300円 一般：1700円 学生・シニア・障害者：1100円 会員：1000円

